2　温室盆栽蒔絵額

柴田是真
一面

明治十年（一八七七）
木製漆塗・蒔絵
総四一・〇×六三・〇

明治十年（一八七七）の第一回内国勧業博覧会に柴田是真（一八〇七～九一）が出品した三面の蒔絵額のうち、宮内省の買い上げとなった一面。出品当時の名称は《春色植木室ノ図》、買上げの記録では名称は《蒔画額植物温室ノ図》で、価格は四十五円となっている。パネル状の黒漆地に蒔絵や螺鈿、彫りなどのさまざま技法を駆使して、茅葺き屋根に土壁の植木室（温室）や、植木や鉢、苗木を育てる穴室などが巧みに表されている。笹葉が付いたままの竹箒が立てかけられた風情、小禽が羽を休める梅樹や春草が描き込まれた穏やかな春の様子は、「人意の表に出つ」と、意匠としても高く評価され、龍紋賞牌を受けた。金縁がついた黒塗りの額も制作当時のものである。是真は明治六年のウィーン万博には《富士田子浦蒔絵額》の大作を発表、これ以降、是真とその一門を中心に、明治初期の内外の博覧会に蒔絵額の数々が出品された。名勝の情景や花鳥、蔬菜を描いた主題が多く、堅牢な漆パネルを漆塗り額で額装した蒔絵額は、輸出を意識して是真が考案した、全く新しい様式の工芸品であった。明治二十年代に国の指導による漆工品制作が伝統様式へと回帰していく中で、蒔絵額は次第に姿を消していくことになる。

簾の部分は薄肉高蒔絵で、金粉を蒔きぼかして透け感を表す。土壁の部分は高く盛り上げ、黄色や赤色の顔料と炭粉を漆と混ぜて質感を工夫し、ひび割れは素彫りによる。植木鉢には小さく切った青貝や切金が用いられている。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治美術の一断面――研ぎ澄まされた技と美
三の丸尚蔵館展覧会図録No.82

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成三十年十一月三日発行

© 2018, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan